

博多港潮流観測報告書

昭和62年10月

第七管区海上保安本部

博多港潮流観測報告書

昭和62年10月5日

水路部長 殿

測量船「はやとも」船長

北津留陸夫



1. 目的

博多港の潮流データを収集し、港内の流況把握及び漂流予測等の基礎資料とするため。

2. 観測要目

(1) 観測海域

図1に示す地点

(2) 観測期間

昭和62年6月15日～7月1日(16日間)

(3) 観測班及び観測船

班長	測量船「はやとも」船長	北津留陸夫
班員	機関長	左田 弘
"	臨時航海士補	白神庸男
"	航海士補	田中喜年
"	海象係長	浜本文隆 (設置)

(4) 資料整理班

班長	水路部水路課	海象係長	浜本文隆
班員	"	海象係	當重 弘

3. 観測概要

図1に示す測点480369において、磁気記録式流速計(MTC-III)による16昼夜観測を、海面下3m(水深9m)で実施した。

6月15日、流速計を設置し7月1日、流速計を揚収した。この間、流速計等は、測量船「はやとも」及び福岡保安部により見回り順調に経過した。

る
8行い

4. 資料整理

験流記録から20分毎の平均流向、流速を読み取り、その値を北方及び東方成分にわけて分速曲線を作成した。その分速曲線から1時間毎の値を読み取り、15昼夜調和分解を行った。また、この資料に昭和30年7月及び昭和41年6月観測の既存資料(1昼夜)を加えて、結果の概要を報告する

5. 観測結果

(1) 恒流

図2は、今回の観測及び既存資料の恒流を示したものであるが、ほとんど0.1ノット以下であり全般に弱い。恒流は、一般に海流、風や地形の影響及び河川流等が原因となっており、季節や時期によっては多少変化する。

また、各測点の年間に予想される最大流速を図2-1に示した。

潮流は、残島の西方(北西～南東方向)を除いて、ほぼ東～西方向に最強となり、流速は0.2～0.7ノットを示す。

(2) 大潮期の平均流況

図3-1～12は、大潮期の平均流況(春秋の大潮期)を測点480369を基準とし、博多港の潮汐と関連させて1時間ごとの流況を示した。

潮流は、ほぼ博多港の高低潮時に転流し、高潮時から低潮時(下げ潮)に西流し、低潮時から高潮時(上げ潮)に東流する。

潮流の流速は、転流時を除いて、志賀島と残島の間から西戸埦間及び残島の南でやや強い。

なお、実際の潮流は、この流れに2図の恒流が合成されたものであるが、短期に変化する気象(風、気圧)等により、本報告と一致しない流れを生じることもあるので注意を要する。

おわりに、本観測に御協力いただいた本部灯台部、福岡海上保安部の方々に対し、深く感謝の意を表します。

図 1 観測点図

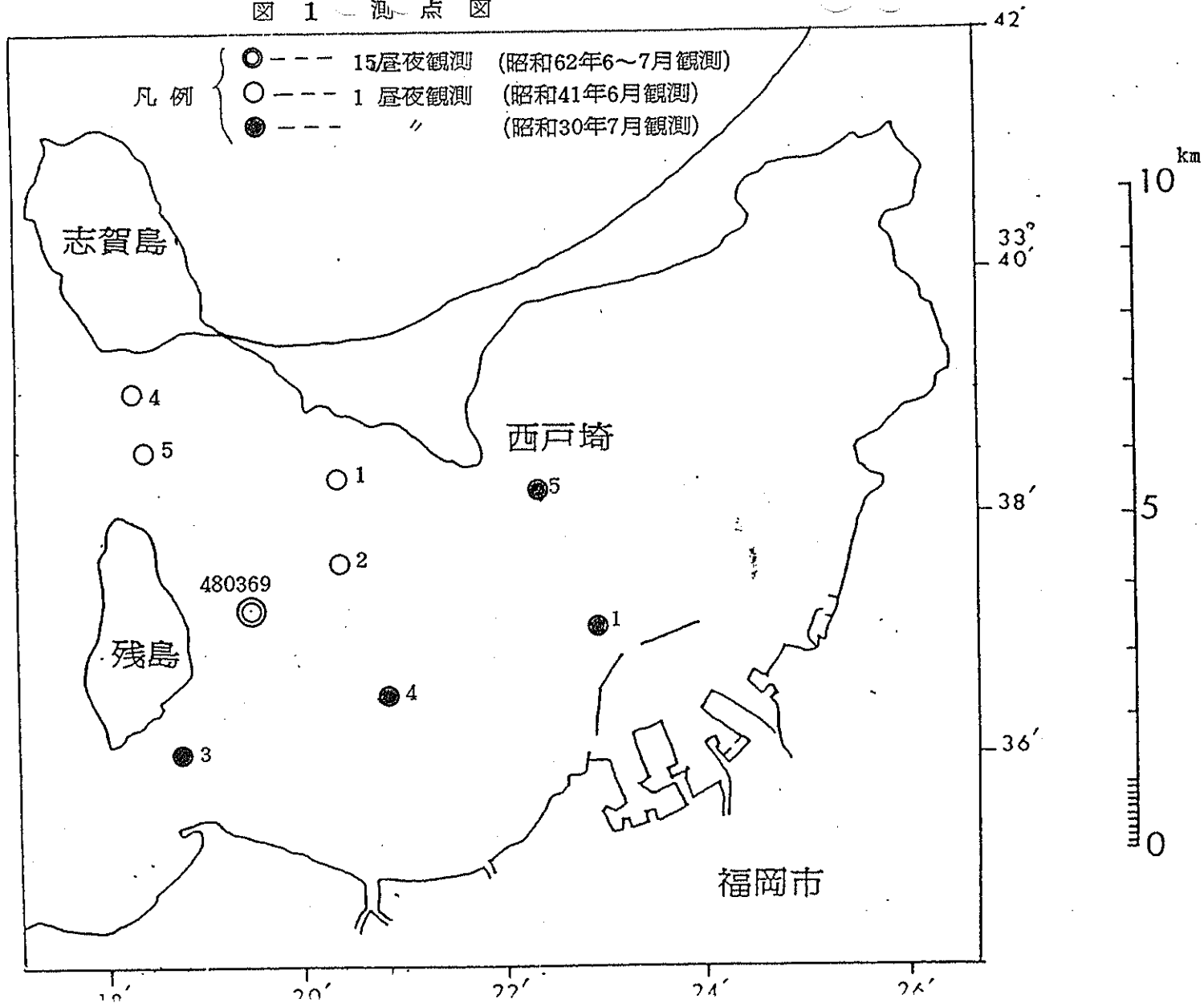


図2 恒流

海面下：2~3m

42'

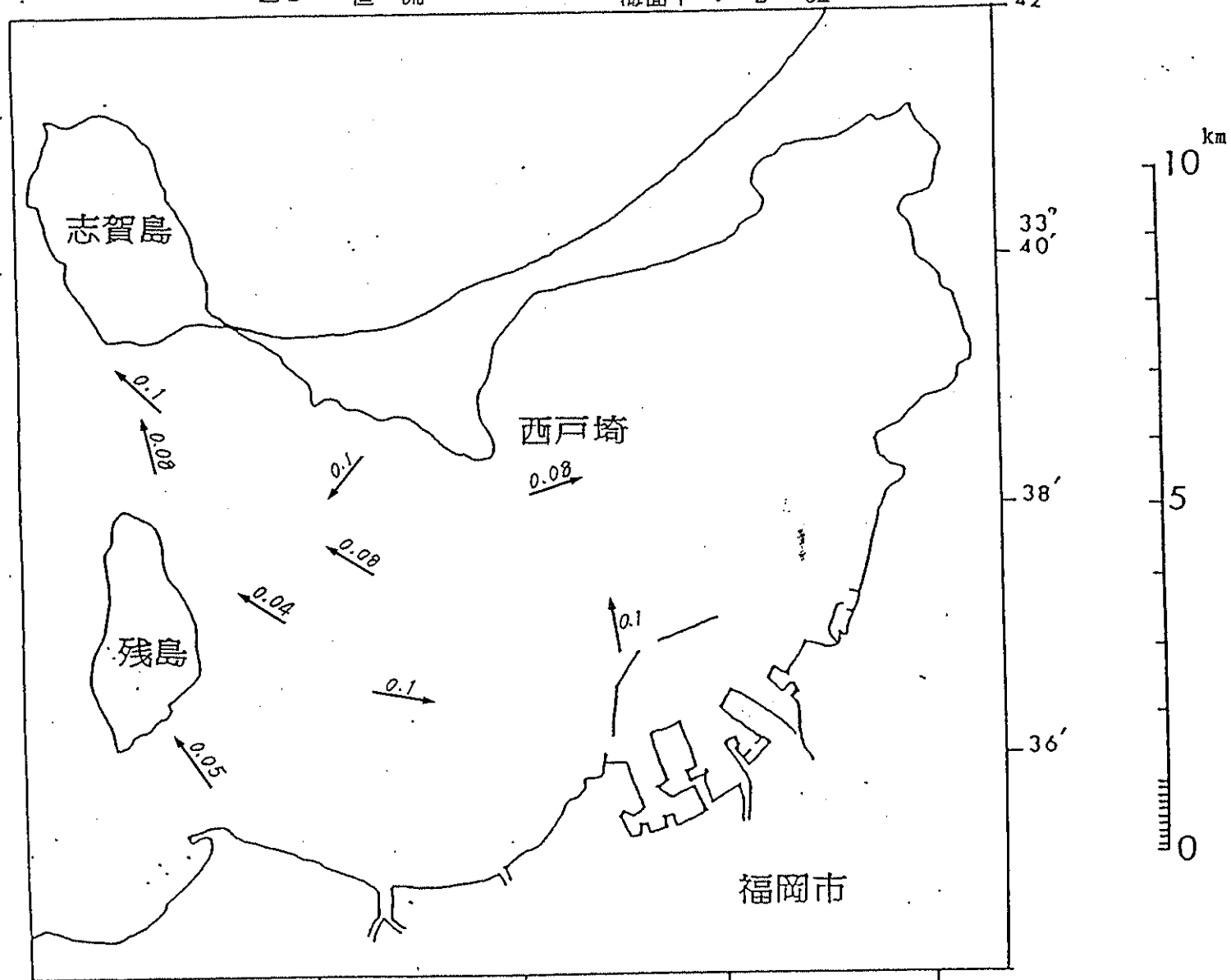


図 2-1 最大流速

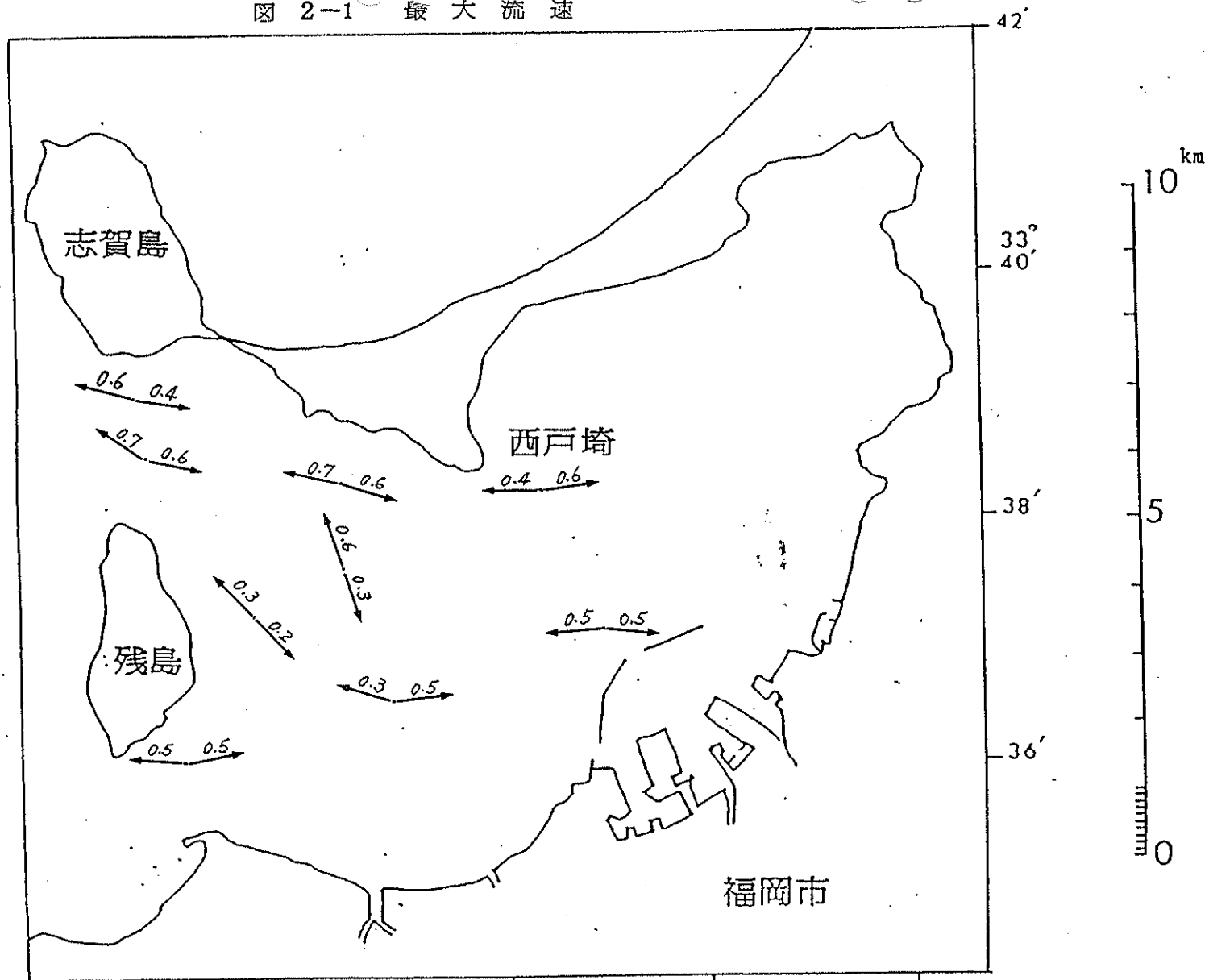


図 3-1 大潮期の平均流況

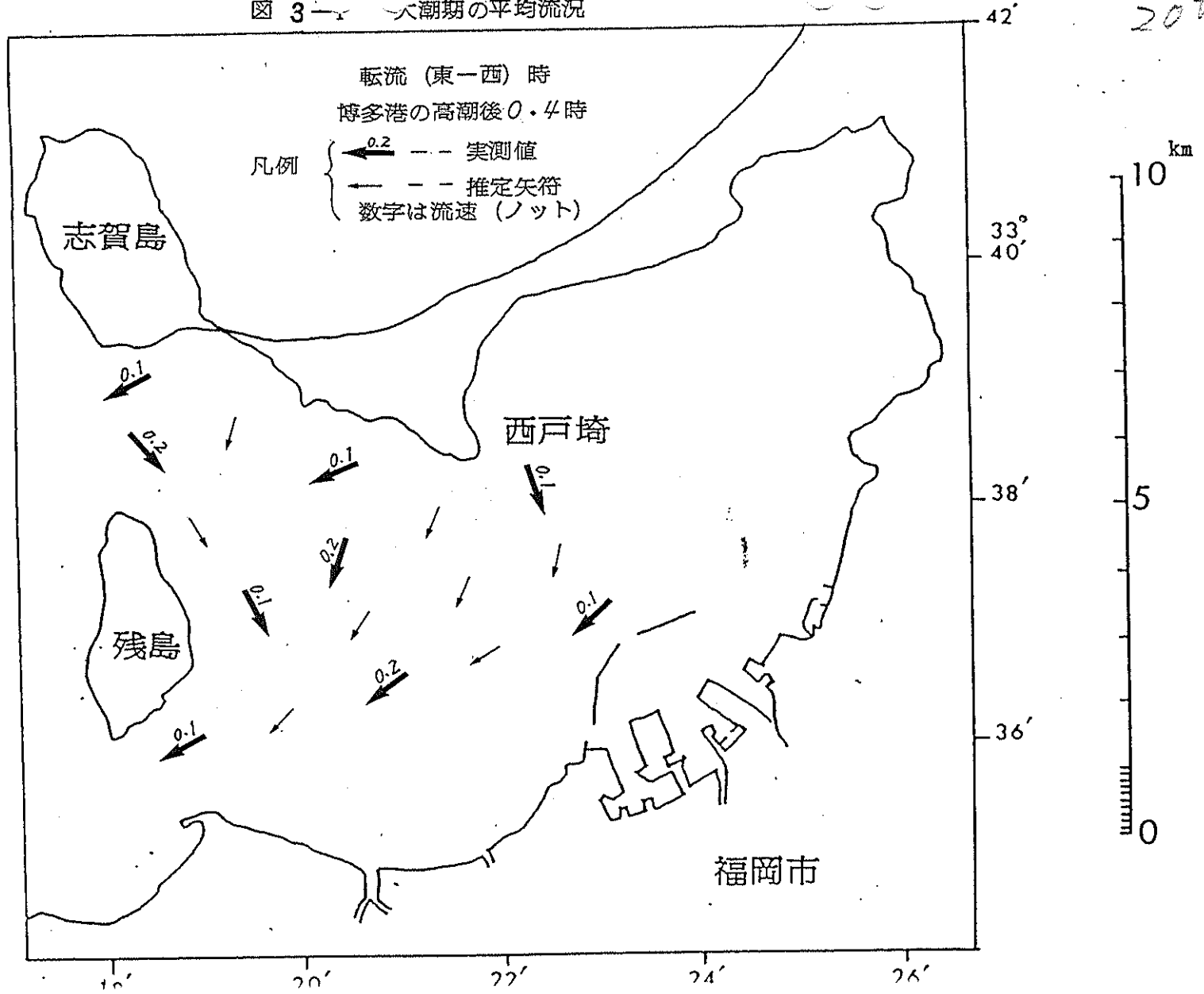


図 3-2 大潮期の平均流況

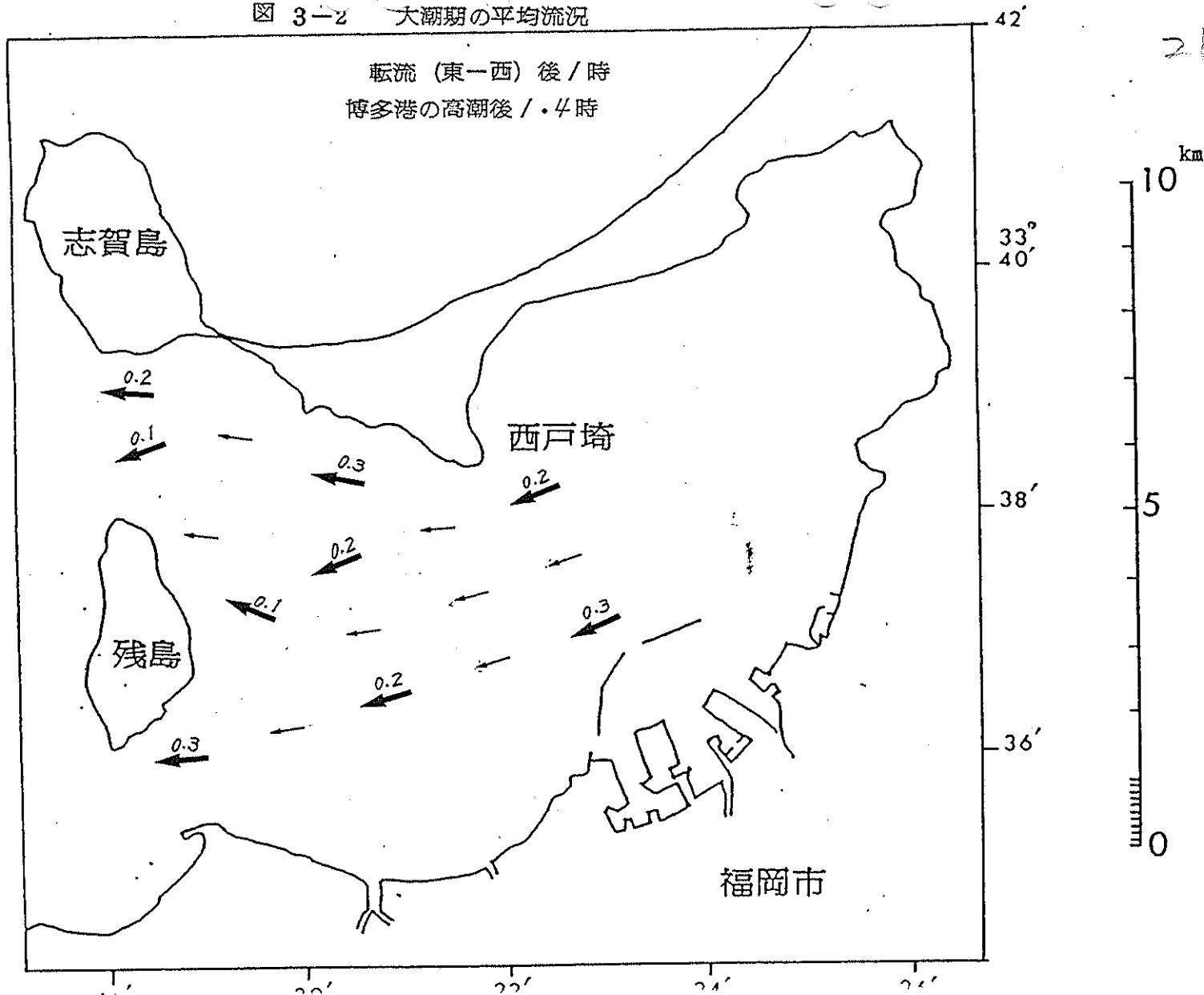


図 3-3 大潮期の平均流況

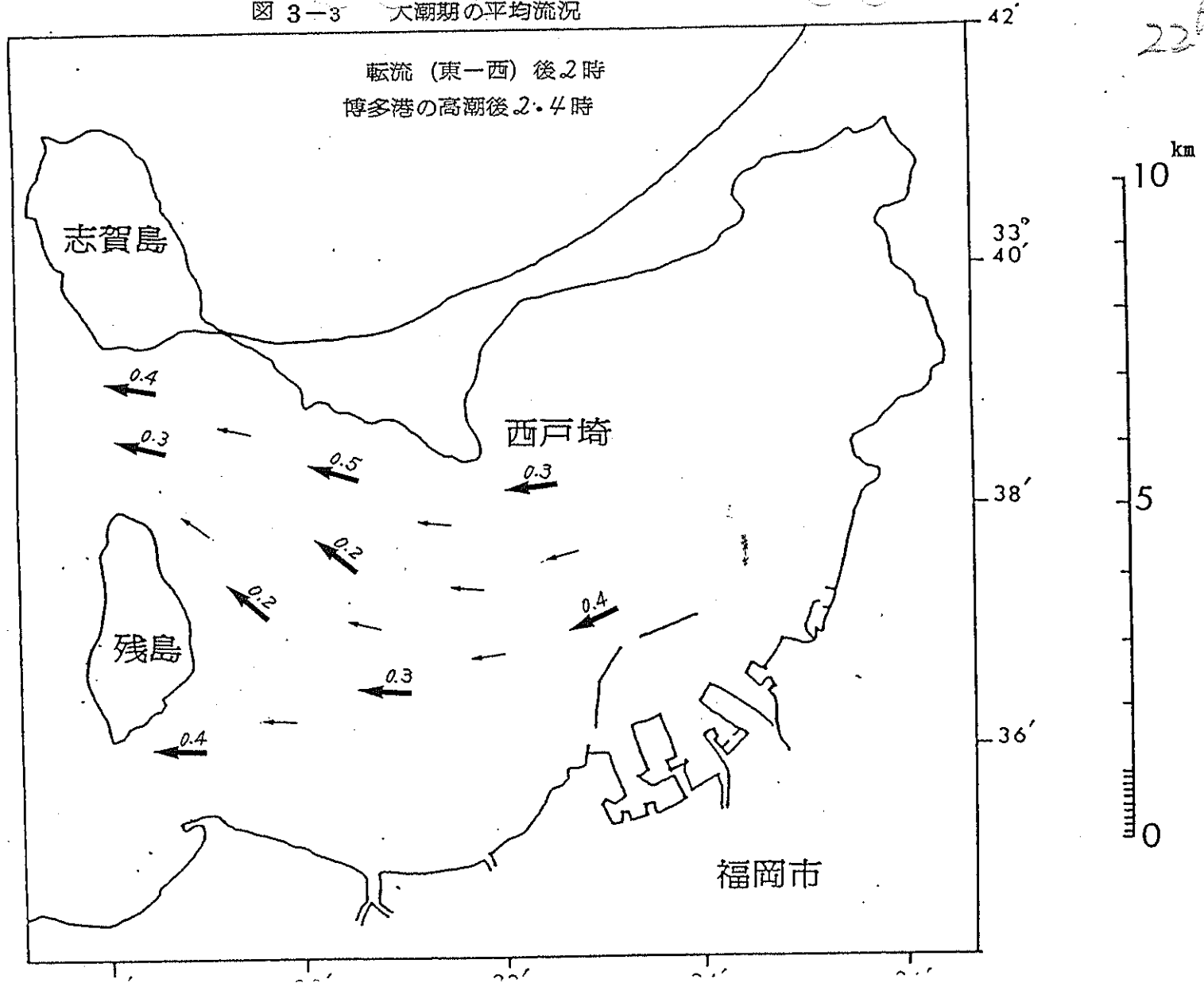
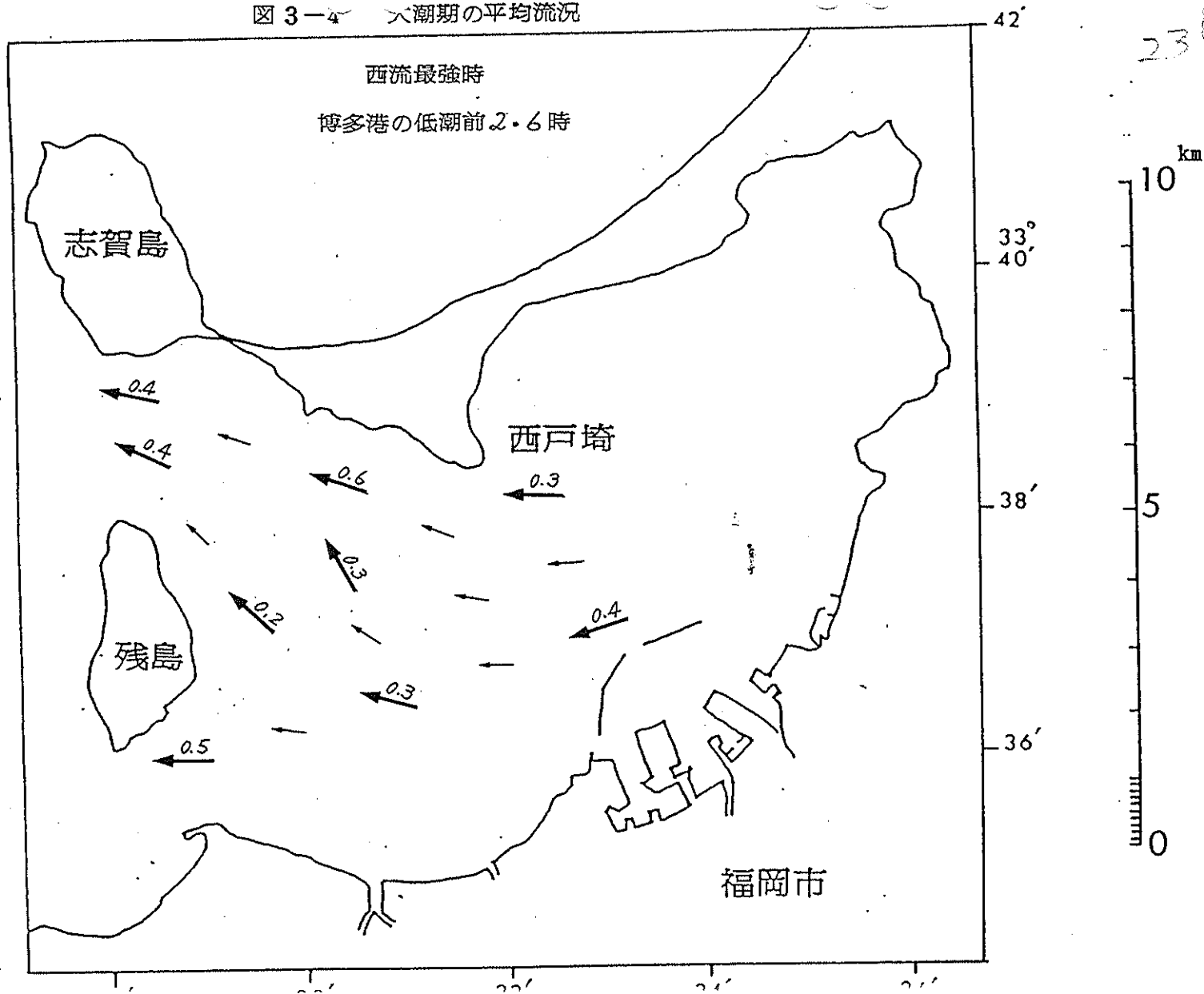


図 3-4 大潮期の平均流況



23

図 3-1 大潮期の平均流況

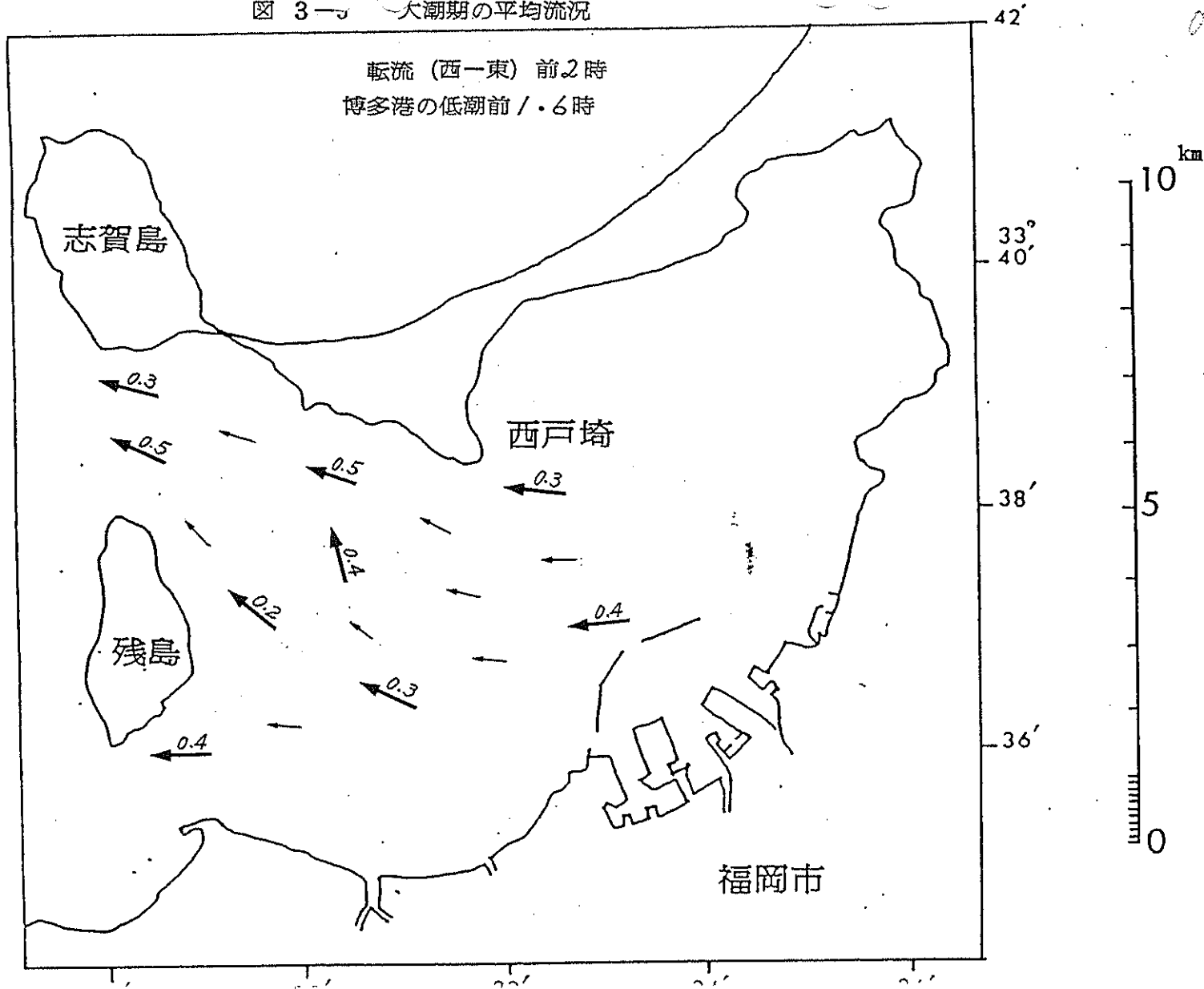


図 3-6 大潮期の平均流況

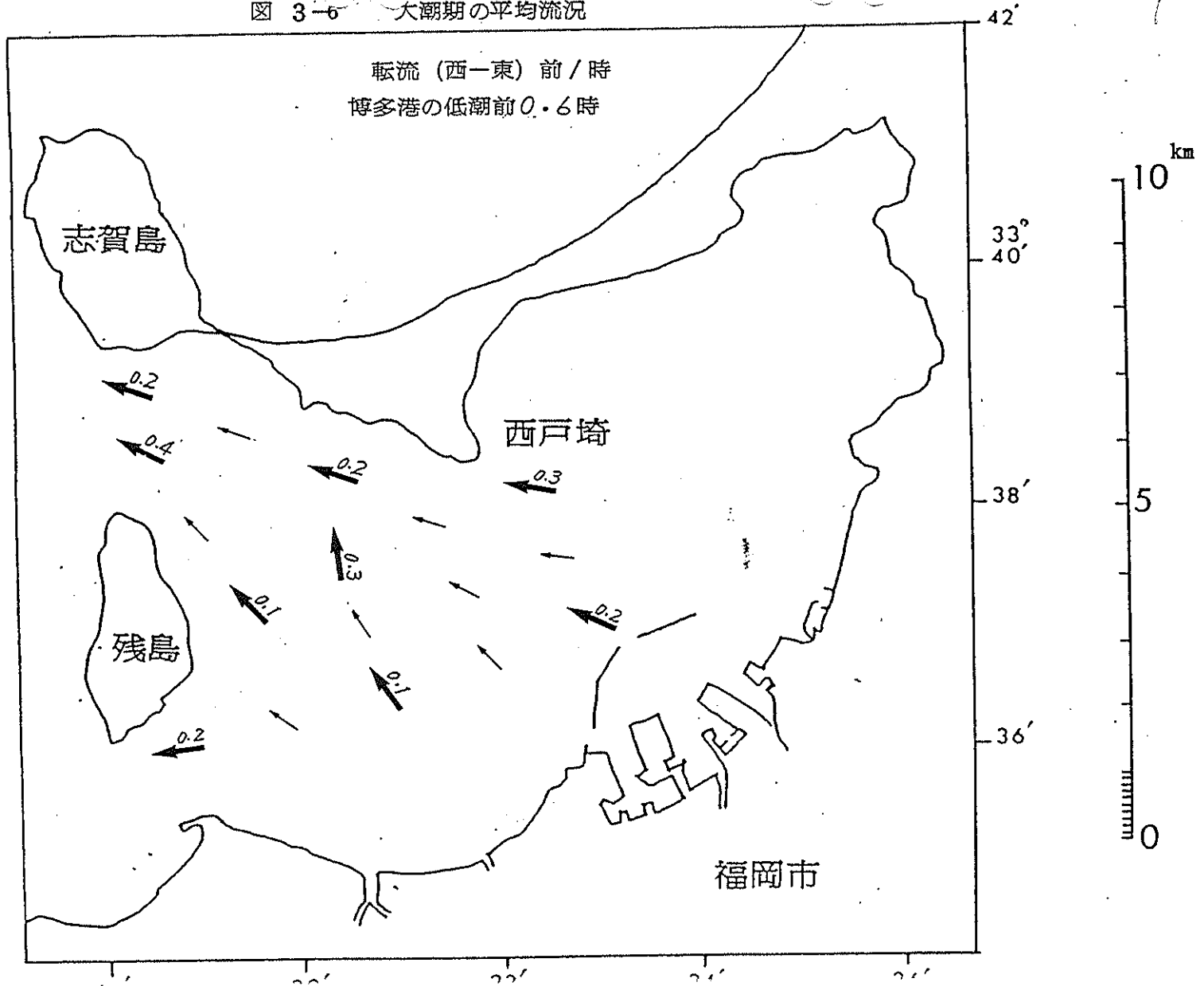


図 3-1 大潮期の平均流況

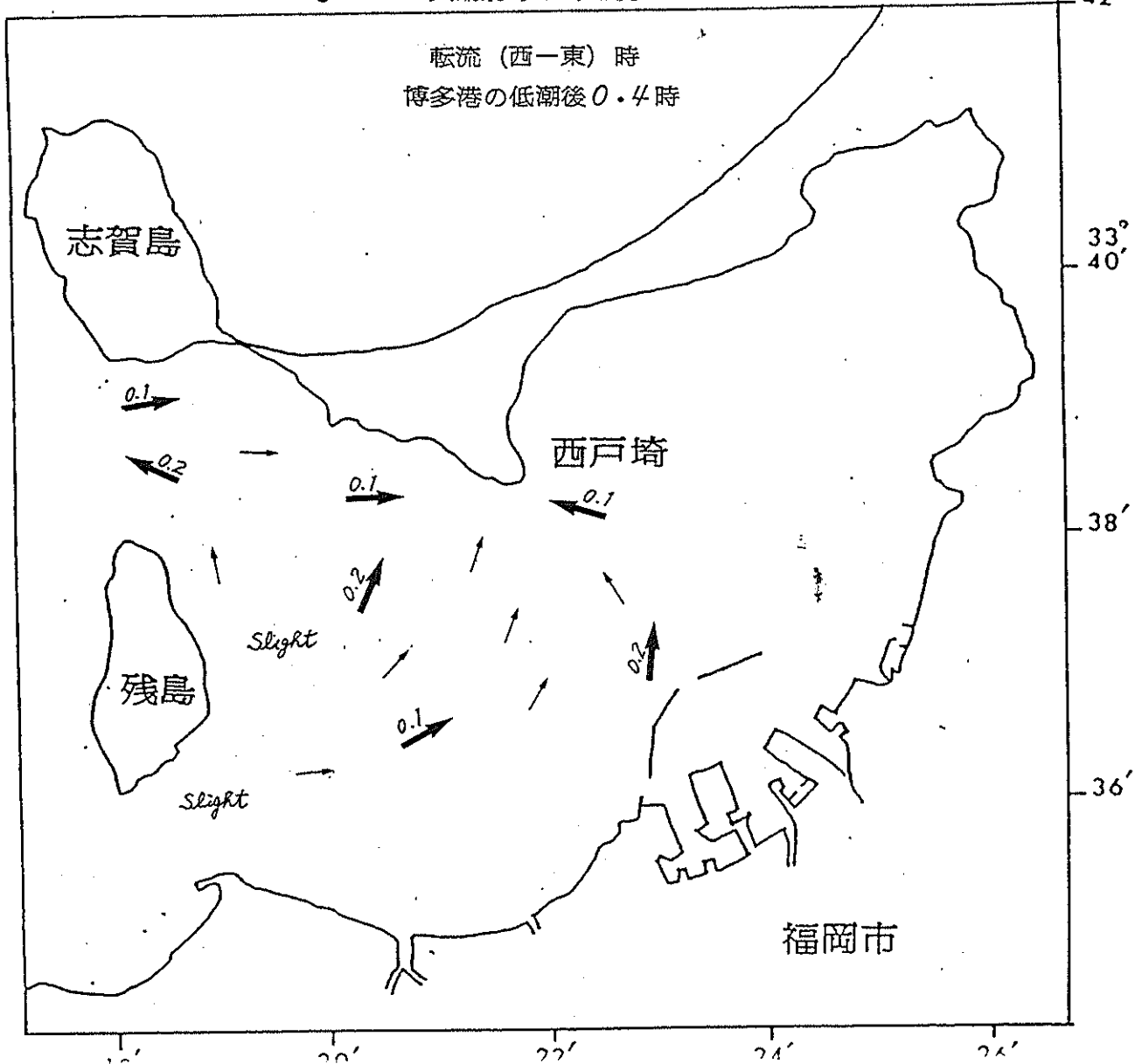


図 3-8 大潮期の平均流況

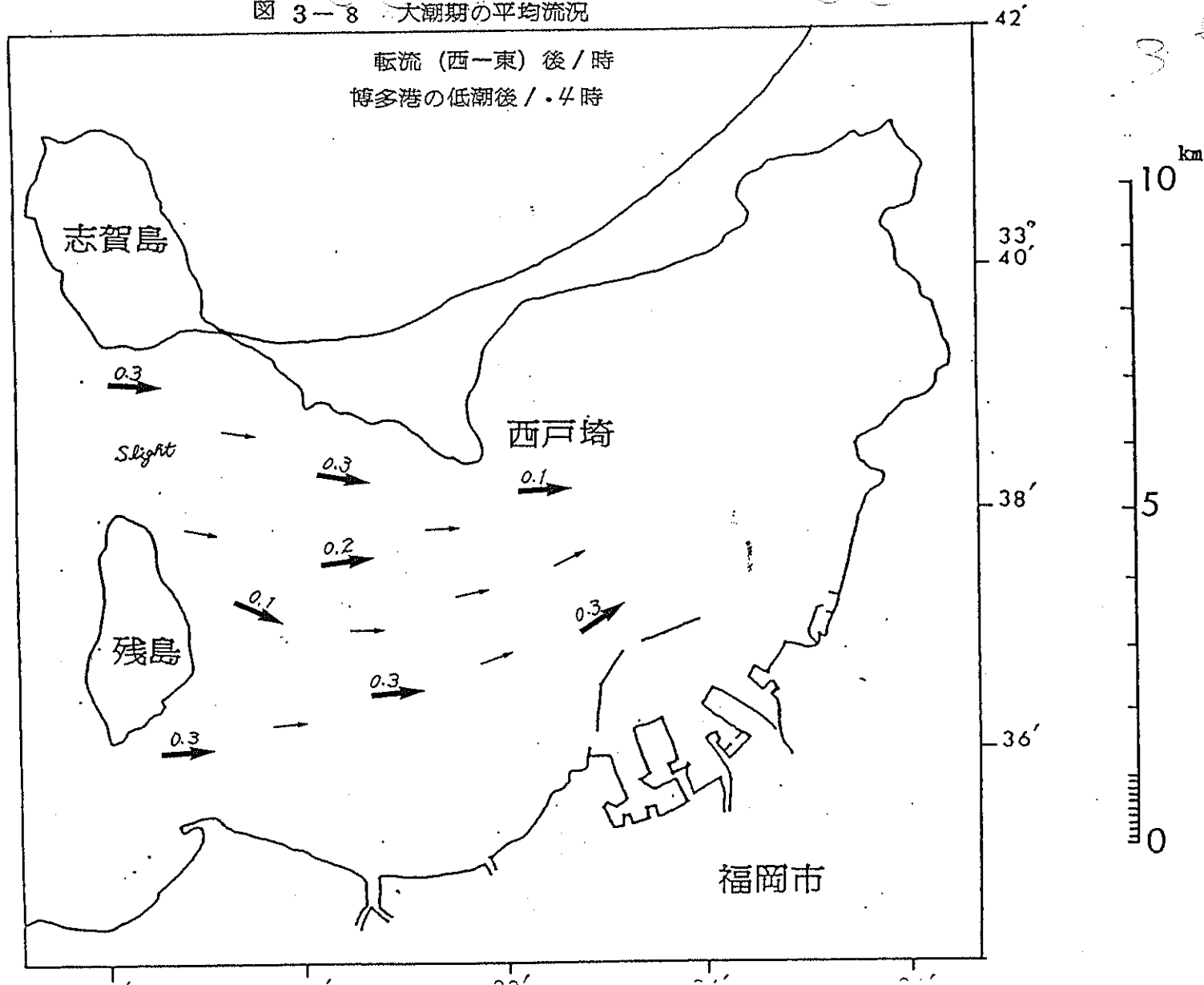


図 3-9 大潮期の平均流況

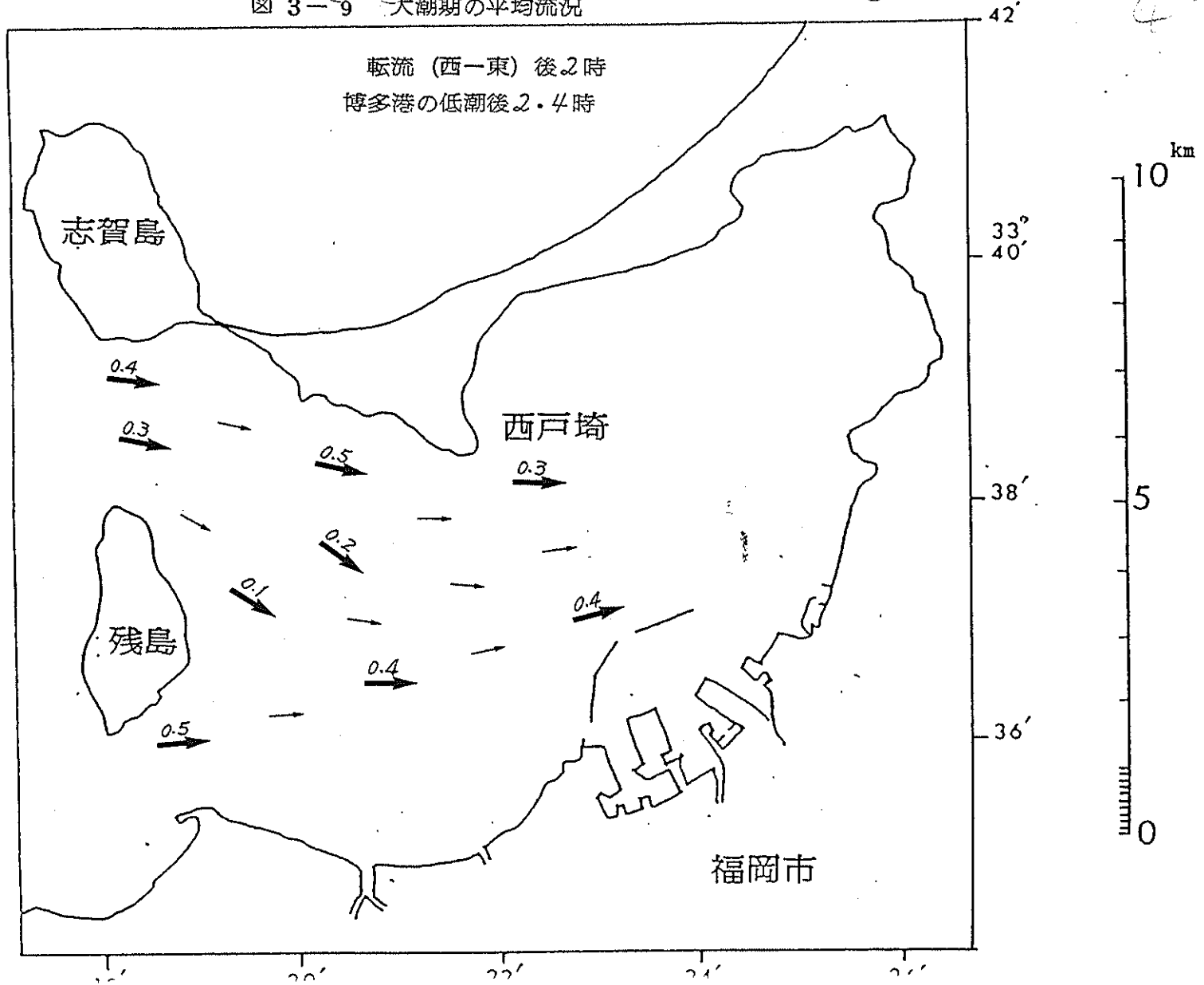


図 3-10 潮期の平均流況

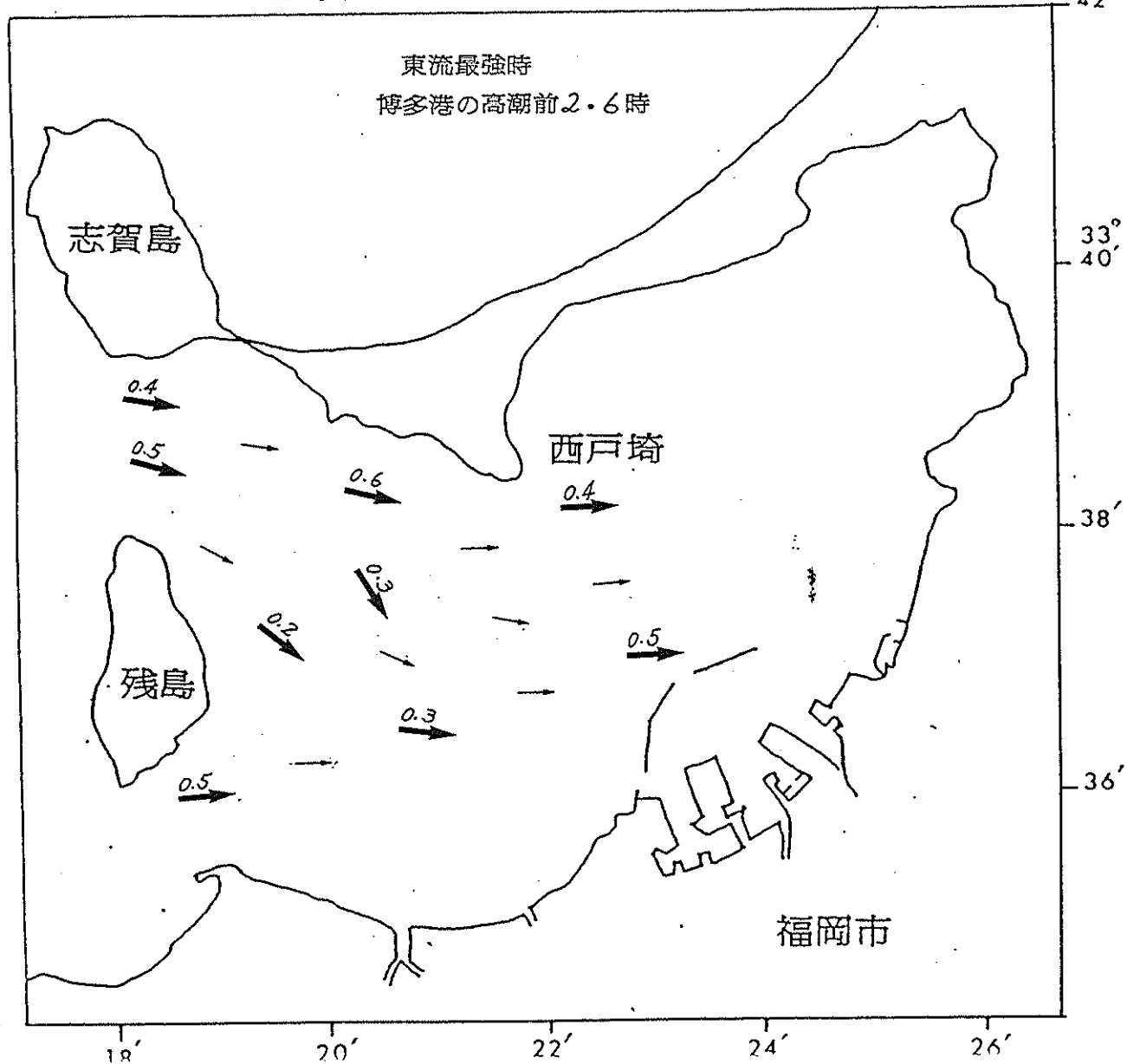


図 3-11 大潮期の平均流況

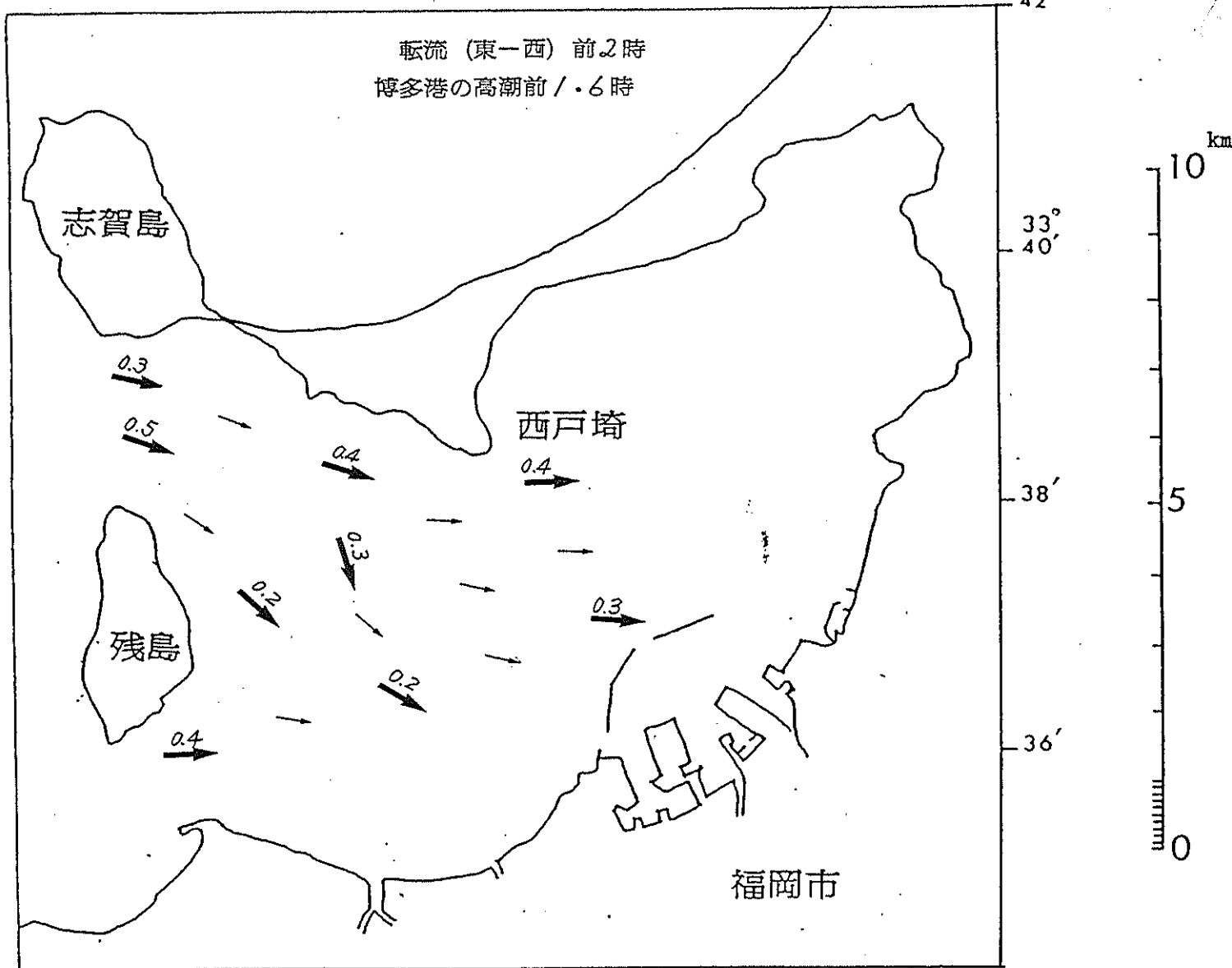


図 3— 大潮期の平均流況

